

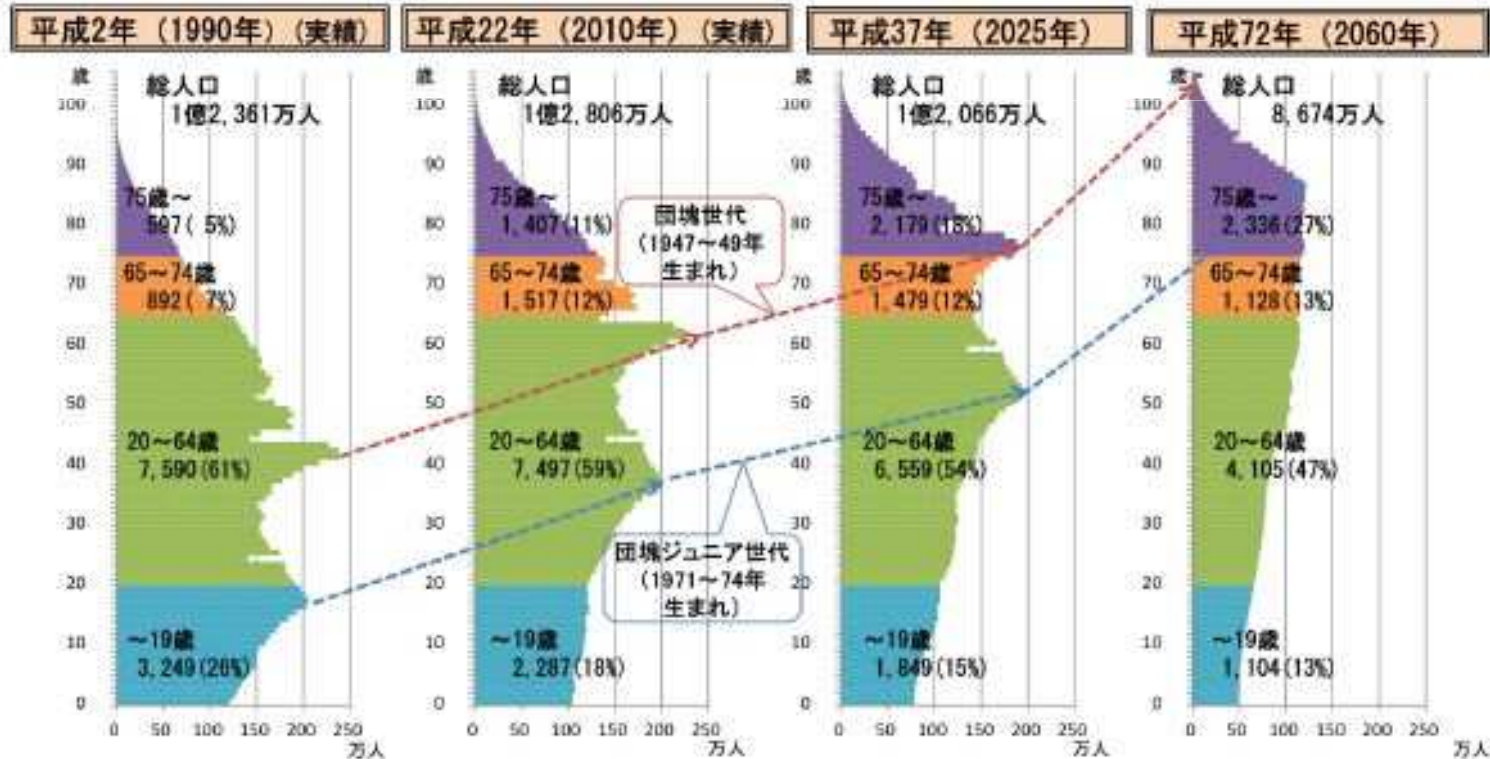
# 高齢化社会の現状

## ①人口ピラミッドの変化

我が国の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定される。

### 人口ピラミッドの変化(1990~2060年)

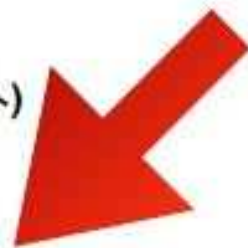
○ 日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.6人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定



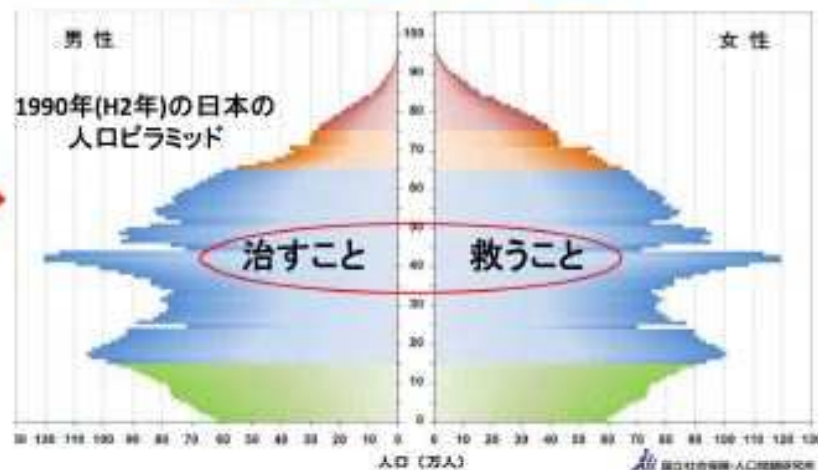
# 高齢化社会の現状

## ② 高齢者医療の変化

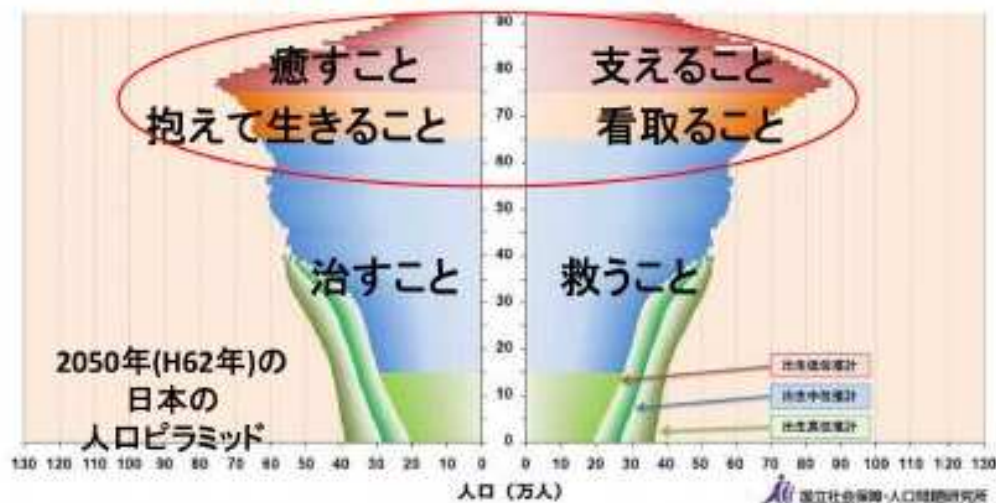
- ・ 慢性疾患の増加(Cureから Careへ)
- ・ 複数傷病を抱える
- ・ 代謝能力の低下



多くの病気が治せた頃



多くの病気を治せなくなる頃



## ③ 地域の重要性が増す

- ・ 高齢者の移動範囲
- ・ 単独または高齢者のみの世帯増加
- ・ 生まれ育っていない土地での高齢化

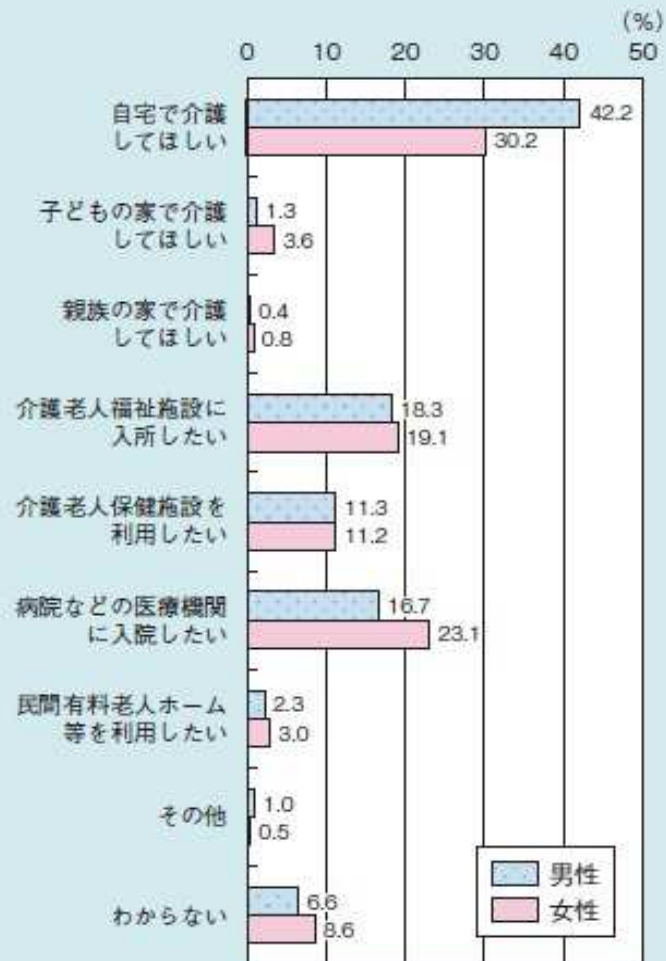
介護のために生活や自由を犠牲にすることなく、  
自分らしい生活が続けることができる点が  
自宅の良さである。 → **【自宅】**

それまでの生活の継続性が  
絶たれてしまう場合も多いと聞くと、  
施設には「365日・24時間の安心感」  
という長所がある。 → **【施設】**

これからの高齢者介護は、  
施設入所は最後の選択肢と考え、  
可能な限り住み慣れた環境の中で  
それまでと変わらない生活を送ることができるよう  
目指すべきである。 → **【地域】**

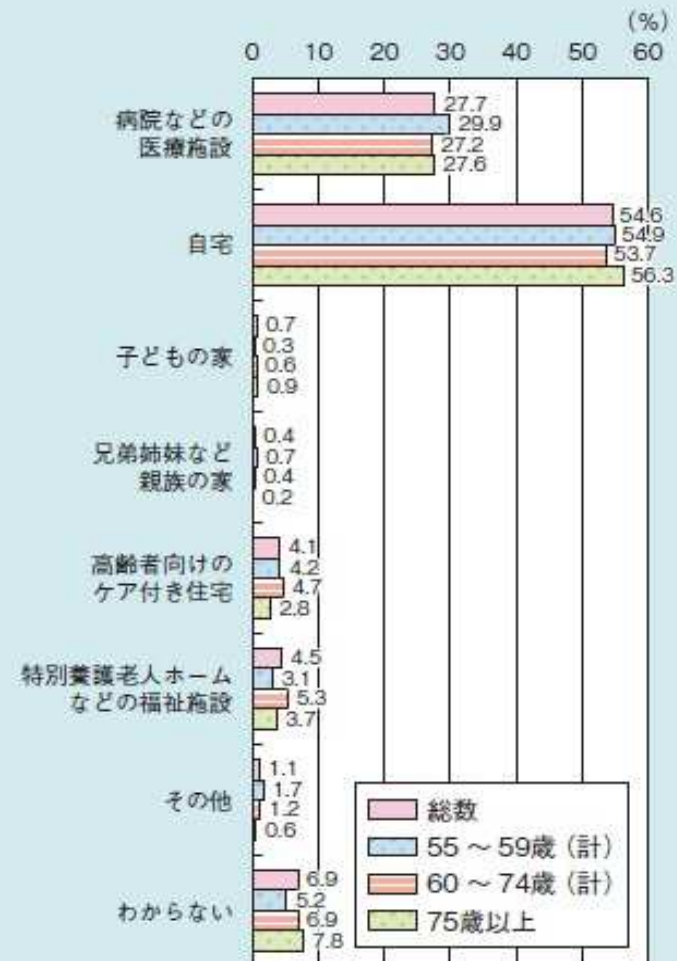
# 高齢者からの声

図1-2-3-16 介護を受けたい場所



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)  
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-3-17 最期を迎えたい場所



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)  
 (注) 対象は、全国55歳以上の男女

# 現実問題

## 家庭内事故の場所



## 家庭内事故の特徴

どんな場所で?

居室、階段、台所、浴室の順

どんなケガ?

打撲・挫傷・刺傷・切傷・骨折・やけど

事故のきっかけは?

転倒と転落をあわせた割合が6割


死亡の原因の1位は?

調理中や浴室でのやけど

**事故は防げない**

自宅での生活に限界 → 施設を選択

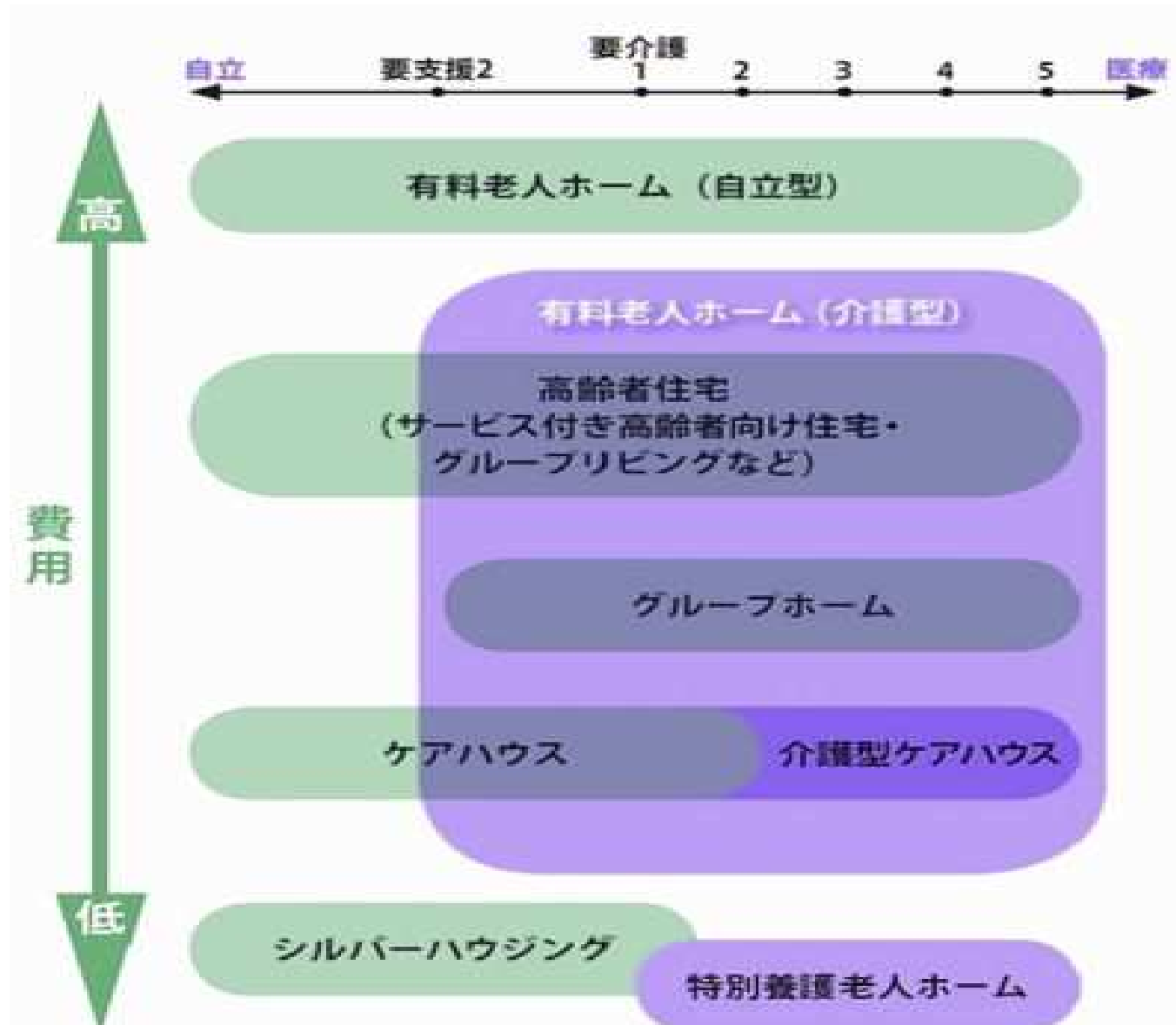
介護のために生活や自由を犠牲にすることなく、  
自分らしい生活が続けることができる点が  
自宅の良さである。 → **【自宅】**



それまでの生活の継続性が  
絶たれてしまう場合も多いと聞くと、  
施設には「365日・24時間の安心感」  
という長所がある。 → **【施設】**

これからの高齢者介護は、  
施設入所は最後の選択肢と考え、  
可能な限り住み慣れた環境の中で  
それまでと変わらない生活を送ることができるよう  
目指すべきである。 → **【地域】**

# 高齢者施設の種類として



# 約5年前のニーズ



介護・医療の充実



安価な月額費用



# 現在のニーズ

今までのライフスタイルに合った住環境が必要(QOL)

介護・医療の充実

提携施設の充実

提供サービスの充実

明確な月額利用料

尊厳を持てる生活


# これからのニーズ

「介護を受けながら住み続ける住まい」という観点では、  
新たな住まいを整備するだけでなく、  
**既存の住宅資源を活用する**ことが重要になってくる。

身体機能の低下に対応した  
バリアフリー化、そして、介護を必要とする高齢者が  
安心して生活していく上で、**医療・介護等の**  
**サービスを円滑に利用できる環境整備**が必要になる。

介護のために生活や自由を犠牲にすることなく、  
自分らしい生活が続けることができる点が  
自宅の良さである。 → **【自宅】**

それまでの生活の継続性が  
絶たれてしまう場合も多いと聞くと、  
施設には「365日・24時間の安心感」  
という長所がある。 → **【施設】**



これからの高齢者介護は、  
施設入所は最後の選択肢と考え、  
可能な限り住み慣れた環境の中で  
それまでと変わらない生活を送ることができるよう  
目指すべきである。 → **【地域】**

介護保険の介護サービスやケアマネジメントのみでは、  
高齢者の生活全てを支えきれものではない。

例：医療が必要なケース、家族との関係に問題を抱えているケース等

介護以外の問題にも対処しながら、  
介護サービスを提供するには、  
保健・福祉・医療の専門職やボランティアなど  
地域の様々な資源を統合した  
包括的なケア（地域包括ケア）が提供されることが必要。

地域包括ケアを有効に機能させるためには、  
関係者の連絡調整を行い、  
サービスのコーディネートを行う  
在宅介護支援センター等の専門機関が必要。

これからの高齢社会においては、  
「高齢者が尊厳をもって暮らすこと」を  
確保することが最も重要であり、  
高齢者が介護が必要となっても  
その人らしい生活を  
自分の意思で送ることを可能とすること、  
社会との繋がりを保つ、すなわち  
「高齢者の尊厳を支えるケア」の実現が重要である。

高齢者とコミュニケーションを図りながら、  
一人一人の心身の状況・生活習慣・個性などの  
個人的な情報を正確且つ具体的に把握し、  
その上でその人のリズムに沿った生活と、  
近隣地域との交流を支援・見守ることが必要である。

私たちは高齢者やそのご家族が  
安心して暮らしていただけるよう  
様々なサポートを行います。



# 高齢者の皆様の相談窓口として

住まい

医療

介護

暮らし